2023 年度 若手・女性研究者奨励金 レポート

研究課題	**歴史地区における国際・国家・ローカルな保全制度の比較研究** **—「災害」と「開発」はいかに文化遺産保全の方針を転換するか—**
キーワード	① 文化遺産保護、 ② マルチアクター分析、 ③ 文化保全

研究者の所属・氏名等

フリガナ 氏 名	ミヤザキ アヤ 宮﨑 彩
配付時の所属先・職位等 （令和４年４月１日現在）	立命館大学 衣笠総合研究機構 専門研究員
現在の所属先・職位等 （令和５年７月１日現在）	東京大学 教養学部教養教育高度化機構 特任准教授
プロフィール	文化遺産保全制度の専門家として研究とプロジェクトマネジメントの両側面から世界各国のフィールドを調査してきた。現在は、大学に教育者として在籍しながら、研究を進めている。

1. 研究の概要

本研究は、人が住むことで常に変化のある**歴史地区において、どのような場合に文化遺産の保全が成功するのか**を明らかにすることを目的とするものである。これまで、文化遺産保全を国際機関や国家当局がトップダウンで実施する国際・国内保全制度において、ローカルなアクターである自治体と自治体に媒介された市民によるボトムアップの行動がどのように相互作用するのか、制度とその実施に着目してきた。2023 年度からは、特に、自然・人為的要因による災害や開発で、破壊・再建・復興を経験しながら、現在までその形を維持してきた**歴史的な建造物を有する都市において、「災害」や「開発」が文化遺産保全の政策や制度に与える影響を明らかにする**ため、従来の研究では見てこなかった当事者を発掘しながら、ヒアリングや資料の収集を行ってきた。

博士論文までの研究では、特に開発にフォーカスをしながら経済的な利益を想定した動きが主導した文化遺産保全の在り方を明らかにしてきた。しかしながら、事例として見てきたメキシコ市歴史地区では、歴史的建造物の積極的な保全の背景に 1985 年の大地震によって壊滅的な被害を受けたことと、中央政府の介入の不備に対する反発としての市民活動があった点について、深く掘り下げることができなかった。2023 年度の本奨励金を使って、この背景にある動きを分析するための情報収集と、これらの情報を GIS などの位置情報と結びつけるための地図情報の収集も行った。

現在は、これらの収集したデータを分析しているところであり、具体的な成果は 2024 年中に論文として発表したいと考えている。

2. 研究の動機、目的

文化遺産を効果的に保全するために国際・国内の制度設計の在り方と制度の実施の間に開いた溝をどのように埋めることができるのか、特にローカルアクター（地方自治体や市民）の活動に焦点をあてた分析を行ってきた。合理的な判断に則り、文化遺産の保全ではなく経済活

動（開発）を優先する決断が取られているにも関わらず、結果的に文化遺産を保全することになった事例を比較分析することで、国際・国家・ローカルアクターの役割をマルチアクター参加型モデルとして提示した。

研究で明らかになったのは、**自治体による機会の醸成により市民参加（包括的な保全活動）が起こると、様々なレベルのアクター間の問題が解消され、保全が実施される**事例が先進国・途上国に関わらず多数存在することであった。そのため、トップダウンの文化財保全制度で求められる結果が市民レベルで実現されることで、国際・国家的な文化財保全制度が実現しているように見えるが、保全が実現される事例において潤滑油となっているのはローカルレベルの自治体による制度設計とその結果エンパワーされた市民のリーダーシップである。各国の成功・失敗事例の比較を通じ、自治体がいかに市民の動員を促すような制度設計を行うかが、歴史地区全体の保全につながるか、その様子が明らかになってきた。

特にメインの事例として扱ったメキシコ市の歴史地区においては、1985 年の大震災以後、地方自治体に権限が委譲される「民主化」によって、市民参加の度合いが高まった。その結果、世界遺産メカニズムや国内法制度で見落とされていた貧しい地域においても、市民主導で歴史的建造物の保全が進んだ。メキシコ市行政の当時の担当者や現在導入されているシステムを運営している担当者に話を聞きながら、実際の現場を見せていただいた（図 1）

図 1　メキシコ市行政担当官たちへのヒアリング

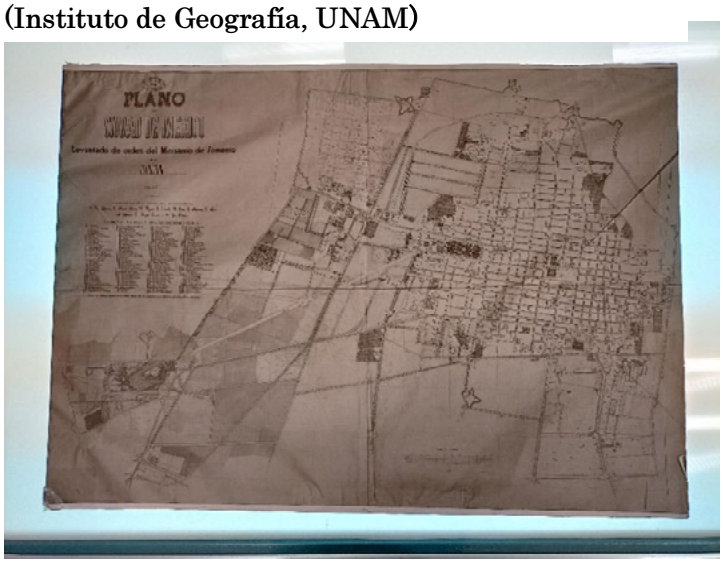
博士論文では全体のメカニズムを明らかにすることが目的であったため、**なぜ地震という「災害」がメキシコ市の歴史地区における文化遺産保全に影響を与える制度設計や政策の転換点となったか**については掘り下げることができなかった。同様に、ボトムアップアプローチを加味した包括的な保全制度が導入された事例を見ると、「災害」や「開発」といったリスクが生じた際に、方針転換が図られる様子が明らかになってきた。これらのことから、博士論文で始めた研究をさらに深堀り、特に災害がきっかけとなって発展した文化遺産保全制度設計と運用の在り方を分析するため、この研究を実施した。

3. 研究の結果

奨励金を使って 2023 年 7 月 18 日から 8 月 10 日にかけてメキシコ市に渡航し、これまで不足していた情報を、地理学の観点からは地図情報の収集、コミュニティ参加については市民運動を推進してきた当事者たちへのヒアリングから補足した。

まず、そもそもメキシコ市の歴史地区の大前提となっている時代区分に基づいたゾーニングが適切なものであったのかを見るため、メキシコ市歴史地区の拡大を古地図の比較から明らかにしようと考えた。メキシコの文化財の分類は現代国家を形成した際に発展したナショナリズムの考え方に依拠し、先スペイン期、スペイン統治時代、20世紀以降の3種類であり、当該サイトはメキシコ国内他の歴史地区と比較してもこれら3分類の登録文化財が多い。そのため、メキシコの歴史を説明する重要なモニュメントを多く要する当該サイトを世界遺産登録をする際、政府はコアゾーンとバファーゾーンを時代で区分して登録のための法整備を行ったが、その時代区分が妥当であったのかについては議論されていなかった。そこで、今回はメキシコ自治大学の地理研究所の研究者へのヒアリングと、同研究所付の図書館に赴き、様々な時代のメキシコ市（現在の歴史地区を指す）の地図を収集した（図2）。地図情報を複数比較してみることによって明らかになったのは、メキシコ市の発展に伴い、土地利用が大きく変わっている様子である。特に、より広範囲を示した地図の年代比較によって、メキシコ市の周

図 2　1867 年メキシコ市地図
(Instituto de Geografía, UNAM)



辺に位置する町、畑、湖の規模の拡大と縮小から、いつの時代を機に、だれがどこに住んでいたのかを地図情報から読み取り、その歴史的意味合いが現在の当該サイトの価値判断につながっていることが分かった。

次に、コミュニティ参加の観点から情報の補足を行った。まず、これまでもお話を伺ってきたコミュニティリーダーと共に、これまで行ってきたプロジェクトサイトを回り、賛同していた市民にもヒアリングを行った。また、フィールドリサーチの一環として歴史地区のその方の家に宿泊し、日中には分からない周辺地域の様子を参与観察した。このことにより、不法行為によるトラックの流入や歴史的価値のある建物の違法利用の様子が見えただけでなく、街並み維持の一環でごみ収集が積極的に夜中に行われている様子も初めて見えた。

また、1985年の地震の際に、市民運動を実施したり、情報発信を行っていた地方自治体の担当者からインタビューだけでなく、地震後のメキシコ市再建に向かった経緯のわかる資料をコピーさせてもらった。その流れが現在Mejoramiento Barrialという社会貢献事業につながっており、それを流用する形で歴史的建造物保全にコミュニティが利用している様子も見えてきた。これまでは除外していたいわゆるIndigenas（原住民）をメキシコ市に同化する事業についても新たに学び、いかにしてメキシコ市歴史地区とその周辺で開発・近代化の波と文化・歴史的価値の維持管理が並列で行われているのかを肌感覚で知ることができたのは非常に大きな収穫であった。

その他にも、2010年代からメキシコ市歴史地区の管理計画を策定し、ユネスコメキシコ事務所、メキシコ市政府と共に当該サイトの保全管理に影響を及ぼしてきたUNAM PUEC（都市に関する研究機構、筆者訳）に現地でアポイントメントを取り、インタビューと情報収集を行った。特に世界遺産の管理計画を作るに至った経緯や、その後発行された資料を特別にいただき、この事例の成功を元に、現在他の歴史地区で同様の市民参画アプローチでの保全管理計画を作成していることが明らかになった。

現在は、この時に収集した多くの資料を読み込みながら論文にまとめる作業を行っている。

4. 研究者としてのこれからの展望

本奨励金をいただきながら、これまで行ってきた研究に新たな視座を与えながらより広い意味での「文化遺産」の研究を始めることができた。これまでは制度設計と運用にフォーカスしてきたが、**誰のための文化遺産を誰のために何故保全・活用するのか**という大きなテーマの中でとらえなおしている。

また、メキシコに関する私の研究を踏まえ、2024 年度より大越翼教授の基盤研究 B に参加させていただくこととなり、メキシコの文化遺産化をめぐる研究に貢献することとなった。これまでの研究を踏まえて、共同研究にもプラスになるような議論を積み重ねられればと考えている。

さらに、文化遺産の定義もこれまでは世界遺産条約やそこに至った 20 世紀の解釈を用いてきたが、より生きたモノ・コトとして捉えなおし、新たな対象も含めた研究を行い始めた。人間の営みによって開拓・変更され維持されてきた文化的景

図 3　農業遺産のイギリスの専門家とのミーティング

観や農業遺産（図 3)、人間によって壊された戦争遺産、植民地などで抑圧されてきた人々それぞれにどのように保全管理されているのか、という視点から複数のプロジェクトを同時進行で実施しているところである。

メキシコ市歴史地区の事例から派生して、文化遺産に関する研究を様々に実施しながら、そこで明らかになった知見を、文化遺産と共に生きる社会や人々に貢献できるよう、プロジェクトや出版を積極的に行っていきたい。

5. 支援者（寄付企業等や社会一般）等へのメッセージ

この研究は、博士論文では持っていなかった地理学と防災学からのアプローチで情報を補填しながら、持続可能な文化遺産保全をどのようにメキシコ市歴史都市で行っているのかを明らかにするものでありました。これまでの自分の研究にはあまり自信を持てなかったのですが、この奨励金をいただき、面白い研究だという風に好意的に内容を評価していただいたのがこれまで研究をしてきて一番嬉しい出来事でした。寄付していただいた企業やご支援いただいた皆様に、心からの感謝を申し上げたいです。研究が面白いものであることと、これまでやってきたことに意味があるという認識を改めて持つことができ、2023 年度は様々なエリアに研究対象を広げ、メキシコの事例をより広い視座の中にとらえて進めることができました。

このような機会を与えてくださり、有難うございました。